ロジスティクス環境会議

第１回環境パフォーマンス評価手法検討委員会　議事録

Ⅰ．日　時：２００４年1月２３日（金）　１４：００～１７：００

Ⅱ．場　所：東京・港区　芝パークホテル　別館２Ｆ　アイビー

Ⅲ．出席者：３２名

Ⅳ．議　案：
１）環境調和型ロジスティクス調査(LEMS)の概要について
２）環境パフォーマンス評価手法検討委員会の活動内容について
３）その他

Ⅴ．開　会
定刻、徳田事務局長により、開会が宣された。

Ⅵ．主催者挨拶
稲東専務理事より、会議の設立経緯ならびに設立趣旨と本会議の活動の中で、各メンバー間の合意形成のもとに、サプラチェーン、更にはリバースチェーンの最適化を支えるロジスティクスの概念、方向性、役割が明確となり、今後の社会、経済活動の中で有益な指針に繋がる提言や企業活動の中で役立つツール等が成果として作成されることを期待する。また、約３年の委員会活動で成果を出すためには、継続性のある議論を行うことが必要であり、委員会の出席メンバーは可能な限り同じ方々に参加いただきたい旨の挨拶が行われた。

Ⅶ．委員紹介
増井委員長、小林副委員長、飯島副委員長の挨拶に引続き、各委員より自己紹介がなされた。

Ⅷ．設立後の経過報告について
１）ロジスティクス環境会議の概要について【資料１－１、資料１－２】
事務局より、資料１－１に基づき、ロジスティクス環境会議の設立経緯、資料１－２に基づき、ロジスティクス環境会議の概要と運営体制について説明が行われた後、確認がなされた。

２）ロジスティクス環境会議設立後の経過報告について
【資料２－１、資料２－２、資料２－３】
事務局より、資料２－１に基づき、ロジスティクス環境会議設立(2003 年 11 月 13 日)後の企画運営委員会の開催および第１回企画運営委員会の議論に基づき行われた、各委員会の正副委員長ミーティングの開催経過の報告が行われた。また、資料２－２に基づき、環境会議の全メンバーに対して行われた、問題抽出アンケートの結果の報告が行われた。引続き、資料２－３に基づき、第１期(2003 年 11 月～2006 年 3 月)に議題(合意形成)としたい項目と内容(例示)について説明が行われ、各委員会ならびに全メンバーが環境会議全体としての方針、アウトプット(成果)、目標等について認識を共有したうえで、今後の具体的な活動を推進したい旨の説明が行われた。

Ⅸ．議事の経過

１．議　事

増井委員長の司会進行のもと、以下のような議事が行われた。

１）環境調和型ロジスティクス調査(LEMS)の概要について

事務局より、資料３－１、３－２に基づき、LEMS の概要について説明が行われた後、経済産業省の委託調査で行っている LEMS では、主に調査活動を行っており、当委員会では、調査結果を検証していただき、実務ベースで活用できるものにしていただきたい旨の依頼がなされ、以下のような意見交換が行われた。

【委　員】荷主として環境負荷を評価する場合、物流の合理化によってトラック台数を削減した場合など、重量ベースでは効果が見えてこないため、容積ベースで算出している。

【委　員】パフォーマンスを捉える範囲、原単位、換算係数や複数企業間にわたる場合の按分方法等、標準化に至るまでの課題は多い。

【事務局】冒頭の説明のとおり、LEMS は経済産業省の委託調査として JILS が行っており、経済産業省では、LEMS と環境会議の活動が重複することを懸念している。JILS としては、調査結果として出されたものが、当委員会での検証等を通じて産業界に広く活用されることを願っている。

【委　員】二酸化炭素の排出、騒音・振動など、様々な環境負荷を統合させて、一つの指標とする、「環境統合化指標」という考え方がある。廃材をリサイクルする場合、輸送だけの視点では環境負荷が増加するケースもあるが、統合化して評価をすれば、環境負荷が低減するケースもあるのではないか。

【委　員】共同配送等で複数の企業が物流諸活動に関わる場合の環境負荷の測定方法、評価方法、按分方法等が難しいのが現状である。当委員会の活動を通じて、業務で活用できるものを吸収したい。

２）環境パフォーマンス評価手法検討委員会の活動内容について【資料４】

増井委員長の司会進行により、資料４の説明に入る前に、各メンバーの当委員会に対する期待等について、以下のような意見交換がなされた。

【意見交換の主な内容】

【委　員】物流企業として、どのような活動を行えば環境パフォーマンスの向上に結びつくのか、思案している。現状のトンキロ等の重量ベースの考え方では、物流企業として荷主系企業に貢献することが難しいのではないか。

【委　員】物流企業として、物流合理化を行った場合、その活動が評価されるような指標や測定方法を当委員会で検討して欲しい。

【委　員】京都議定書の削減目標にされている、二酸化炭素をどのようして捉えるかが問題ではないか。また、環境負荷を低減する視点として、物流企業（特に輸配送）は燃料を指標として考えているが、荷主の立場としては、容積を指標として積載効率を優先する。

【委　員】環境負荷低減に取組む活動を行った場合の公正な評価が必要である。そのためにも、比較可能な評価指標と方法が不可欠であり、当委員会の役割もそこにあるのではないか。

【事務局】ＬＣＡ的な視点も含め、当委員会で環境パフォーマンスを整備する必要があるのではないか。

以上のような意見交換が行われた後、増井委員長より、2004 年度は環境パフォーマンス等に関する共通認識を図る必要があると感じている。次回委員会で当委員会の活動方針やアウトプット等の活動計画について合意形成を図りたい旨の意見が述べられた

２）その他

今後のスケジュールについて

第２回委員会は、次のとおり開催することが確認された。

■日時：２００４年2月２６日（木）１５：００～１７：００

■会場：芝パークホテル　本館３Ｆ　牡丹

２．閉　会

以上をもって全ての議事を終了し、増井委員長は閉会を宣した。

以　上